主張

「誰か」のことじゃない

青海　正

○横田さん御夫妻との出会い

私が副校長の時に勤めていた世田谷区立世田谷中学校において、生徒に向けた講演をお願いしたいと考え、横田めぐみさんの御両親に連絡し、川崎のお宅へ伺いました。以下、連絡後にいただいた横田滋さんからのお手紙の抜粋です。

「講演のお話をいただき感謝しています。私共の息子も世田谷区立若林中学校（平成二十三年に山崎中学校と統合、現在の世田谷中学校）でお世話になり、新潟では行方不明のめぐみの弟として緊張して暮らしていましたが、東京へ来れば、皆様めぐみのことを御存じなく、伸び伸びと中学校生活を送ることができました。（中略）川崎駅に着いたらお電話ください。バス停まで出向きます。」大変御丁寧な直筆のお手紙でした。

○横田さん御夫妻の講演要旨

「私たちが慈しみ育てた娘は、気の遠くなるような長きにわたって、北朝鮮という異国に未だ囚われています。北朝鮮でとられためぐみの写真はなんと悲しい目をしていることでしょう。あんなに明るかった娘がなんと寂しく、不安に満ちた表情をしているのでしょう。どんなに悲しく、恐ろしく、つらかったことでしょう。私たちは突然奪い去られた我

←ブルーリボン

拉致被害者の救出を求める国民運動は、ブルーリボンと青色を運動のシンボルにしています。青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」を、また被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

読者ご自身で青く塗ってください

が子をただただ返して欲しいと願って活動を続けてきました。私たちはめぐみをはじめとする全ての被害者が一刻も早く家族の元に帰れることを、また、かつて過ごしたような平穏な生活をめぐみと共に送れるようになることを願ってやみません。そのことが実現するまで私たちはあきらめるわけにはいかない。命がある限り取り組んでいきます。」生徒や教員の心のひだに触れる、御夫妻のお話でした。

○昨年、横田拓也さん（めぐみさんの弟）が志茂田中学校に来校

初代家族連絡会代表の横田滋さんと、二代目代表の飯塚繁雄さん（田口八重子さんの兄）は、再会がかなわぬまま他界されました。現在三代目の代表は、横田拓也さんです。「私たちが求めているのは全拉致被害者の即時一括帰国です。親世代が健在・存命のうちに再会が果たせることを強く求めています。」琴線に訴えてくるメッセージでした。

○家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする心情や態度を育む

被害者の一部帰国から二二年余り。拉致問題への関心の低下、風化が叫ばれて久しくなります。拉致問題を、どれだけの教員や生徒が知っているのでしょうか。私たち校長は、常に生徒一人一人の「いのち」と「人権」を守りきる覚悟をもつとともに、その姿勢を崩さないことが重要です。私自身もこのような当事者の声を聞く経験を通して、「誰か」のことではなく、自分事として生徒の人権や安全を守ることを強く心に誓っています。横田めぐみさんは、私と同い年、還暦です。

（全日本中学校長会会長・大田区立志茂田中学校長）